

一丸となって国難突破を

倫理研究所理事長 丸山敏秋

令和の御代となって初めての新年を迎え、躍進を決意したのも束の間、予想もしなかった出来事が次々に発生しました。とりわけ中国武漢市で発生した未知のウイルスによる感染症が、中国国内はおろか世界中に広がり、甚大な負の影響を与えることになるなど、いったい誰が想像したでしょう。

感染は百を超える国々に広がり、各国は対応に苦慮しています。早くに感染者が現れた日本の場合、幸いにも現在のところ爆発的な拡大は発生しておらず、季節的なインフルエンザに比べれば、感染者も死亡者もはるかに少ない状況です。

しかし万が一に備えて、北海道では緊急事態宣言を出し、政府は大規模イベントの開催自粛や学校の休校を要請するなどの対策を講じました。倫理研究所でも政府の基本方針を踏まえて、会員組織の活動を二月二十六日より二週間停止し、今月十一日より再開いたしました。倫理法人会のモーニングセミナーなどの日常的な行事は、大規模イベントには当たらず、参加者もほぼ特定できるからです。もとより再開したとはいえ、各都道府県や各地域で状況は異なるため、それぞれで自主的に判断いただくようになっております。

新型コロナウイルスはその正体が不明であるため、人々は大きな不安を抱きます。マスクも報道も不安を煽る傾向があります。しかし実際は、感染しても治癒した人が多く、致死率もかつてのペストやコレラやスペイン風邪とは比べものになりません。いま打ち克たなくてはならないのは、ウイルスのみならず、ウイル

スに対する過度の恐怖心です。

政府の専門家会議は、国内の流行は長期化するとの見通しを示しました。そうなるときに最も危惧するのは、「コロナ不況」あるいは「コロナ恐慌」と呼ばれている、経済活動の深刻な危機が発生することです。すでにこの二カ月の間に、大きな損失を被る企業が増大してきました。世界恐慌が発生するのではないかと懸念もあります。

もし企業の倒産が相次ぎ、日本経済が崩壊の危機に瀕する事態に陥れば、その混乱と損失は現今のウイルス禍どころではありません。いまやわが国は、感染症の拡大を防ぎながら、同時に経済活動も維持していくという、非常に困難な課題に直面しているのです。

なんとしてもここで、踏みとどまらなくてはなりません。未曾有の危機を乗り越えるという強い意志のもと、冷静に沈着に、今それぞれの企業ができること、為すべきことに全力を傾注しようではありませんか。恐怖ウイルスに打ち克つためには、「心の免疫力」を高めることが肝心です。「苦難福門」「明朗愛和」「捨

我得全」「心即太陽」「信成万事」……。私たちはそのための学びをしてきました。今こそさらに実践に磨きをかけ、全国の倫友と心を合わせ、一丸となって、国難を突破していこうではありませんか。

最後になりましたが、全国の倫理法人会の役職者および会員の皆さまのご支援ご尽力に感謝し、益々のご健闘とご健康をお祈り申し上げます。